

平成 21 年度コミュニティ・スクール推進協議会 実践発表資料

| | | | | | | | | | | |
|--------------------|-------------------------------------|-------------------------|---------------------------------------|-------|--------------------------------------|------------------|-----|----|-----|--|
| (ふりがな) | (いわいずみちょうりつ おもと ちゅうがっこう) | | | | | | | | | |
| 学校名 | 岩泉町立小本中学校 | | | | | | | | | |
| (ふりがな) | (しもへいぐん いわいずみちょう おもと あざ はなほ) | | | | | | | | | |
| 所在地 | 岩手県下閉伊郡岩泉町小本字鼻保 1 5 | | | | | | | | | |
| 電話番号 | 0 1 9 4 (2 8) 2 0 3 9 | | | FAX番号 | 0 1 9 4 (2 8) 2 7 7 5 | | | | | |
| 学級数 | | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 | 5 年 | 6 年 | 特支 | 計 | |
| | | 1 | 1 | 1 | | | | 0 | 3 | |
| 児童・生徒数 | | 7 | 1 7 | 1 2 | | | | | 3 6 | |
| | (特支) | 0 | 0 | 0 | | | | | 0 | |
| 教職員数 | 1 0 人 | 学校運営協議会を置く学校として指定された年月日 | | | | 平成 2 0 年 4 月 1 日 | | | | |
| 学校運営協議会の 委員数・構成 | 9 人 | | 内 地域代表 6 人、保護者代表 1 人、 大学教授等有識者 1 人 | | 教職員 1 人、 学校運営協議会代表者 (会長等) : 学識経験者 | | | | | |
| その他 | 学校運営協議会の事務局として、副校長と教務主任が会議には参加している。 | | | | | | | | | |

(平成 21 年 7 月 1 日時点)

I 学校運営協議会設置までの経緯、設置後の改善状況

<学区の概要と特徴>

本校は、岩手県東部の三陸海岸沿いに位置し、昨年の学区内の世帯数は 7 1 1 戸、人口は 1, 9 3 5 名となっており、年々過疎化が進んでいる。

主な生活基盤は第一次産業となっており、漁業・農業・酪農に従事しているが、近年は、学区内の工場や会社勤務も多くなっている。

当学区は、昔からこの地に住んでいる人が多いため、地区民同士の繋がりも強い。学区民は、学校に通っている子どもやその家族、さらにその祖先までさかのぼってお互いに分かり合っており、地域と学校の結びつきも強い。

本校へは、小本小学校とその分校 (大牛内分校) の卒業生のみが入学してくる。

1. 「学校運営協議会を置く学校 (コミュニティ・スクール)」指定前の状況

- 保護者・地域の学校への協力体制がよく、以前より様々な活動が保護者や地域の支援のもとに行われてきていた。
- 町内出身の教職員が少なく (岩泉町内全体で見ても、町内出身者は 8 % 程度である) 地域の自然・文化・歴史・伝統・産業についての学習の深化が図りにかった。さらに、4・5 年で教職員が転勤することから、保護者や地域の支援により行われている学校行事や地区内での体験活動といった教育活動が形骸化して継承されがちであった。
- 生徒は、素直で落ち着いて生活しているが、「自分には良いところがある」といった、自己肯定感を持つ生徒の割合が少なかった。

2. 学校運営協議会の設置を決めた理由

- 様々な立場（保護者・同窓会・各種教育関係団体等）で協力いただいている以下の活動の全体像を統括し、その意義を継承していく組織づくりが必要であった。

また、以下の活動が、保護者・地域住民のニーズ等に合致しているか検討を行う必要があり、その検討組織として学校運営協議会が有効に機能するのではないかと考えた。

◇生徒による新巻鮭づくり

・地元の小本浜漁業協同組合より鮭を提供いただき、保護者や地域住民の協力を得て、さばき方から塩漬け作業の指導と乾燥作業の指導をいただいている。



〈鮭をさばいている生徒〉

◇体育祭での「小本さんさ」踊りの披露

・同窓会と地域住民の協力により、踊り方の指導と太鼓の指導をいただき、全校生徒による踊りを体育祭で披露している。



〈体育祭での「小本さんさ」踊り〉

◇地区民運動会へ全校生徒参加

・地区の運動会に競技者として参加するだけではなく、役員として生徒を位置づけてもらい、地区民の一人として活動している。その中で地域のために役立っている、貢献しているという意識を持たせると共に、地域からも認められる機会となっている。

◇文化祭での七頭舞の発表

・地元の伝統芸能である、中野七頭舞を保存会の指導と保護者の協力により文化祭において披露している。平成16年には沖縄で開催された全国中学校総合文化祭において発表してきている。



〈文化祭での中野七頭舞発表〉

◇明神山登山

・校歌にも歌われている明神山登山を、同窓会と保護者の方々による枝払い作業の協力と登山案内により3年に一度実施し、太平洋を一望する機会となっている。

◇その他

・鮭祭りへの生徒参加，助け合い演芸会への生徒参加，漁協女性部からの雑巾の贈呈，民生委員による登校時の挨拶運動

- 生徒が郷土理解を更に深めるためにも、更に教育活動に地域の人材を活用するための窓口が必要であった。



〈鮭祭りに来た町長さんにも生徒が地場産品を販売〉

- 地域の中でも、生徒が役割を持って活動する中で認められる機会を更に作りたかった。

3. 学校運営協議会の設置方針の決定後から設置までの課題とその対応状況

- 学校運営協議会委員の候補者選定やその候補者への打診
 - ⇒ 当時のPTA会長と相談の上、以前より学校との関わりが深く、学校実情を良く知っている組織の代表者の方々を中心に決定した。
- 《委員の役職等》
 - ・委員長→学識経験者（自治会長，町選挙管理委員長，学校創立50周年事業における実行委員長等）
 - ・副委員長→前PTA会長（地区少年補導員，民生員等）
 - ・委員→同窓会長（学校評議員，観光開発企業社長，消防団長等）
 - ・委員→小本浜漁業協同組合筆頭理事（学校評議員）
 - ・委員→小本浜漁業協同組合女性部長（学校評議員）
 - ・委員→地区主任民生児童委員（学校評議員）
 - ・委員→地区民生委員協議会会長（学校評議員）
 - ・委員→PTA会長
- 学校運営協議会委員としての役割の説明
 - ⇒ 制度趣旨並びに設置を決めた理由の説明と、コミュニティ・スクール先進校視察等を行い、各委員の理解は一応図られたが、まだ十分とは言えないため、現在も説明のあり方について課題として残っている。
- 保護者への制度趣旨説明
 - ⇒ 校報を通じて趣旨説明を行ったが、保護者の理解は十分とは言えないため更に懇談会等を新たに開催するなどして、それらの場を通じて説明していくこととしている。

4. 学校運営協議会が学校や教育委員会に対してこれまでに提案してきた主な意見等

【学校運営の基本的な方針に対するもの】

- 特に、具体的な意見は出されていない。
-
- #### 【学校運営に関する事項に対するもの】
- 生徒の様子を見たり、学力・学習状況調査結果や保護者による教育活動についてのアンケート結果を見てもうまくいっているようなのでいいのではないか。
 - おとなしくていい生徒だが、積極性に欠ける面を改善する方策をとってはどうか。
 - 学校運営に対して、学校運営協議会委員が何をやればよいのか具体的に示してほしい。

【学校の職員の採用その他の任用に関する事項に対するもの】

- 特に、具体的な意見は出されていないが、「地元に住む教職員が少ないため、どのような先生がいるのかはつきりせず、意見を言うのが難しい。まずは、先生が地元の行事に積極的に参加してほしい。」といった声は挙がっていた。

5. 学校運営協議会が提案した意見を踏まえた、学校や教育委員会の具体的な取組

【学校運営に関すること】

- 学校運営について意見をいただきやすくするために、学校の活動内容や成果と課題を知っていただく機会として、学校行事や給食への招待などを行っている。

【教育活動に関すること】

- 地元の産業祭り（鮭まつり）において、生徒が地場産品の販売活動等を行うことを通じて、積極性を身に付けられる機会をつくった。

【教職員の任用に関すること】

- 特になし

6. 学校運営協議会の設置後に感じられる変化（成果）

【学校（教職員）側】

- 教育活動の様子を保護者・地域に情報提供する機会が増えた。
- 学校運営協議会委員が学校評価を客観的にもできるように、重点目標に数値目標を加えたことにより、目指すものをしっかりとらえて取り組むことが出来ている。
- 保護者や地域に支えられながら行っている活動を整理してとらえることにより、子ども達に付けたい力を再確認することができた。

【教育委員会側】

- コミュニティ・スクール推進のために町独自に予算をつけ、県外のコミュニティ・スクール先進校視察の実施など学校運営協議会委員の研修の機会を設定している。
- 町教育委員会主催のコミュニティ・スクール推進委員会を定期的を開催し、町内で指定を受けている6校で推進状況の交流や研修を実施している。

【園児・児童・生徒側】

- 地域に支えられていることを実感することで、地域に貢献できる活動を考えるようになった。
- 地域の方々から褒められる機会が増え、更に学校においてもそのことを取り上げて認めることにより、少しずつではあるが自信を持って意欲的に地域行事へ参加できるようになっている。

【保護者側】

- 重点目標を「わかる授業の創造」や「所属感を高め、信頼しあえる人間関係の醸成」から、「授業がわかる生徒80%以上」や「学校に来るのが楽しいと感じる生徒90%以上」というように、わかりやすい表現にし、数値化もして保護者に提示したことで、学校がどのような点を重点として取り組んでいるか多くの方に理解していただけるようになった。

【地域側】

- 子ども達が落ち着いて学校生活を送っていることや、地域内でも良く挨拶をしてもらえることなどから、学校に対して好意的な見方が多くなっている。

7. 学校運営協議会の設置後に抱えている課題

- 学校運営協議会委員の方々に、学校の取り組みや実情について更に理解いただく必要がある。
- 学校運営協議会の役割と目指すものが、保護者・地域住民に十分浸透していない。
- 学校運営協議会として、保護者・地域住民の要望・意見を吸い上げる必要がある。
- 地域が学校を支援するのと同様に、学校（教職員）の地域貢献も必要になってくるが、地元出身者がいないため難しい面がある。

8. 上記7の課題の解決に向けた今後の取組予定

- 学校運営協議会委員の方々は、様々や役職を兼ねている方が多く多忙ではあるが、教育活動の内容や生徒の実態について理解を深めていただくために、日常の教育活動の様子も見ていただく機会も設定していきたい。
- まだまだ「学校運営協議会」自体が地域にとって馴染みのないものであるため、役割や目指すものについて広報活動を充実させていくとともに、懇談会やアンケートにより保護者・地域の要望・意見を吸い上げていきたい。
- 教職員も地区行事に出来るだけ参加することにより、地域住民との交流を深めていきたい。

II 学校運営協議会の実際の運営状況等

1. 学校運営協議会の運営状況

（平成20年度実績：年4回開催）

| 回 | 年月日 | 議 題 等 |
|--|------------|-------------------------------|
| 1 | H20. 4. 14 | 学校運営協議会委員任命式並びに服務について |
| 2 | H20. 6. 5 | （審議）学校教育方針，（協議）学校運営協議会活動計画 |
| 3 | H20. 9. 24 | （協議）前期教育活動の評価，視察研修事業 |
| 4 | H21. 1. 28 | （審議）学校運営評価，平成21年度学校経営方針，協議会事業 |
| | | |
| | | |
| （補記） ・上記の他、学校運営協議会は学校行事（入学式・卒業式・体育祭・文化祭）や給食会に参加し、諸活動を参観していただき、施設設備の状況、教職員の指導や生徒の実態を見ていただいている。 | | |

2. 学校運営協議会に関する基本情報等

- 学校運営協議会を置く学校としての指定期間（年数）※規則上
- 学校運営協議会の委員の任期（年数）※規則上
- 学校運営協議会の委員の改選方法の工夫

| |
|-----|
| 3 年 |
| 2 年 |

まだ、改選期になってはいないが、学校との関わりが深く学校実情を良く知っている組織の代表者をあてているのが現状であり、今後もその組織との連携が必要になってくるため、現在と同じ人選方法で改選を考えている。
また、保護者代表については増やす方向で考えていきたい。

- 学校運営協議会の議事内容の公開状況

校報により議事概要を保護者・地域住民に公開（校報は地区内の回覧板にて各家庭に回覧）している。

3. 学校の教育活動に協力する仕組み（PTA、学校支援地域本部事業等）との連携状況

- 学校運営協議会委員がPTAや同窓会などの、生徒の教育活動の支援を行っている団体の関係者であり、委員の構成上、連携が取りやすくなっている。

4. 学校運営に対する意見を聞く他の仕組み（学校関係者評価、外部アンケート等）との連携状況

- まだ連携の取組はなされていない。昨年は、学校が保護者に対して行った教育活動に関するアンケート結果から、学校運営の重点目標についての達成度と課題について協議した。その結果、更に具体的な成果と課題を確認するためにも、今年度の重点は数値目標として掲げた。

《参考：今年度の重点目標》

授業がわかる生徒 80%以上
計画的に家庭学習に取り組んでいる生徒 70%以上

学校に来るのが楽しいと感じる生徒 90%以上
自分にはいいところがあると実感できる生徒 70%以上

将来の夢を持って努力する生徒 70%以上

学校の活動がよくわかる保護者 80%以上

- 地域住民の方々が、学校に対してどのような意見・要望を持っているかについては、まだ十分に把握する手立てをとっていないため、学校運営協議会の場においても検討していきたい。

5. その他

- 岩手県では、「いわて型コミュニティ・スクール構想」を掲げ、「検証可能な目標達成型の学校経営への転換」と「学校・児童生徒・家庭・地域との連携・協働による教育の推進」を図っており、その点も意識して取り組んでいる。

また、45年ほど前から「教育振興運動」として、地域，学校，保護者，行政が連携してどもの教育にあたる運動を行っており、各地域で特色ある活動を行っている。